

メイクだけではない。死から看護を、医療を見つめる場。

「ナースのためのエンゼルメイク・アカデミア」は、“看取り”に立ち会う専門職として、どのような援助のあり方があるのかを多面的に考え、学ぶ場です。エンゼルケアやエンゼルメイクの技術を習得するためだけでなく、様々な立場にある方々の死に対する働きかけや思いを聞き、自らのかわりを反芻しながら、死生観や看護観、人生観を養っていくプログラムです。7 ヶ月に渡る連続講座にくまなく参加するのは決して楽ではないかと思いますが、医療者として、ひとりの人間として、死とはなにか、死にかかわる意味とはなにかを探り、ケアへの学びを深めていく旅へ、どうぞお出かけください。

講師（プログラム順・敬称略）と主催企業の紹介

①③大垣麻里 株式会社沙羅 湯灌士

関西外語大学スペイン語科を卒業後、大手都市銀行に入行。その後、茨木市の介護ステーションで訪問介護の職に就き、介護福祉士の資格を取得。介護の仕事を通じて、高齢者が自らの死に不安を抱いていることを感じ、人生最期の旅立ちの姿を援助する、故人の湯灌業へ転身。2001年、有限会社ケイエスサービスに入社。湯灌業務のほか、独自のアイデアでエアブラシを使ったカバーメイクや新しい技術の導入にも積極的取り組み、人材育成等のマネジメント業務を含め、組織の中核を担う。亡くなった方の声を聞きその気持ちを叶えるため、またご家族の思いに寄り添うお別れを提供するため、より理想的な湯灌や死後メイクの追求を目指し、株式会社プリエールを立ち上げた。社名を株式会社沙羅に変更し、代表を務めている。日本人の死生観への深い洞察を基に、主張しないやさしい語り口が評判を呼び、全国の医療機関や教育機関でエンゼルケア&メイク、着付けなどの技術指導を行っている。

⑤小林光恵 作家・エンゼルメイク研究会代表

看護師として東京警察病院、茨城県赤十字血液センターに勤務。その後編集者を経て独立。元看護師としてのキャリアを生かし、医療界を独特のユーモアを交えながら鋭く描写し、人気作家としての地位を確立。サブカルチャーからグルメまで多岐に渡る執筆活動のほか、エンゼルメイク研究会の代表として、全国各地の医療機関等で講演活動を展開中。エンゼルメイクやエンゼルケアのあり方に一石を投じた歴史的書、改訂版「ケアとしての死化粧—エンゼルメイクから見えてくる最期のケア」（日本看護協会出版会）の編著のほか、『説明できるエンゼルケア：40 の声かけ・説明例』、『もっと知りたいエンゼルケア Q&A[DVD付]』（以上医学書院）、漫画『おたんこナース』（小学館文庫）、『死化粧（エンゼルメイク）—最期の看取り』（宝島社文庫）、『ナースのための決定版 エンゼルケア』（学研メディカル秀潤社）、『人が人を看取るとき』（電子書籍 ああ出版）、『介護はケアマネで9割決まる!』（扶桑社）など著書多数。

②⑦上野宗則 「エンゼルメイク・アカデミア」主宰

父親の死によって遺族となった経験を活かし、1998年より死化粧用品等ご遺体ケアのための商品づくりをはじめ。その後、「人の死に立ち会うとき、なにができるか」をテーマに、看取りに携わる医療従事者や葬祭事業者のための講習会を企画。2011年にはエンゼルメイク・アカデミアブックとして、『エンゼルケアのエビデンス!? 死に立ち会うとき、できること』（sokeiパブリッシング）を出版。遺族としての目線を大切に、「社会に生きる人々が死を想うきっかけづくりができれば」をモットーに、全国各地で死にゆっくと向き合う場所「スローデス・カフェ」を開いている。スローライフの提唱者として知られる文化人類学者の辻信一と意気投合し、スロー・スモール・シンプルな思想を世に問う、大人のための小学校、「ゆっくり小学校」を立ち上げ、ようむ員を務めるほか、アジアの叢智を伝えるスローシネマの制作等にも携わる。株式会社素敬代表取締役社長。

④沼野尚美 ホスピスチャプレン・カウンセラー

武庫川女子大学薬学部卒業。神戸ルーテル神学校修士課程修了。米国ゴンザガ大学宗教部宣教コース修了。ケンシントン大学大学院行動科学研究科修士課程修了（心理学・カウンセリング専攻）。病院薬剤師から病院チャプレンとカウンセラーに転職。チャプレンとして淀川キリスト教病院等、また、カウンセラーとして日本バプテスト病院などに勤務後、現在、宝塚市立病院緩和ケア病棟、神戸中央病院緩和ケア病棟、北播磨総合医療センター緩和ケア病棟等にてチャプレンとカウンセラーを兼務。スピリチュアルケア等に関する講演を全国で数多く行う。著書に『癒されて旅立ちたい—ホスピスチャプレン物語』『共に生きる道—ホスピスチャプレン物語』『満足して死に逝く為—ホスピスチャプレンが見た「老い」の叫び』（以上佼成出版社）、『いのちと家族の絆—がん家族のこころの風景』『生と死を抱きしめて—ホスピスのがん患者さんが教えてくれた生きる意味』『救いは苦しみの中にある—ホスピスチャプレンが出会った癒やしと安らぎの言葉』（以上明石書店）などがある。

⑥岩瀬博太郎 千葉大学附属法医学教育研究センター センター長

東京大学大学院医学系研究科法医学教室教授。東京大学医学部を卒業後、同大学法医学教室勤務を経て、2003年より千葉大学法医学教室に赴任。日本の法医学領域としてはじめてCTによる死後画像検査を導入。2014年4月、従来の法医学教室を軸に、法医学的諸検査を実施しながら、教育・研究の充実を図るための拠点として、千葉大学法医学教育研究センターを開設した。現在の日本における死因究明制度の不備を指摘するとともに、法医学の社会的意義や窮状を社会に訴え、“死から生を学ぶ制度改革”を押し量っている。日本テレビ系ドラマ「ブルドクター」等の監修のほか、著書として『焼かれる前に語れ』（柳原三佳との共著）、『法医学者、死者と語る 解剖室で聴く異状死体、最期の声』（以上WAVE出版）、『死体は今日も泣いている 日本の「死因」はウンだらけ』（光文社）がある。

株式会社素敬 「エンゼルメイク・アカデミア」主催

1967年に香水や消臭剤をつくる会社として下関で創業。故人のための香水を発売したことをきっかけにご遺体関連の商品開発をはじめ。人の死にかかわる方々との出会いから、尊体ケアを専門的に行うための商品を次々に開発。商品の提案のみならず葬祭事業者や死後ケア専門業者に、技術的な情報提供のためのセミナーを開始。2006年より、栄光病院内NPO法人栄光ホスピスセンターとの共催で九州エンゼルメイク研究会を立ち上げ、すべての企画に携わる。2007年、医療関係者を対象に、看取りに関するアイデアや考え方への学びの場として「ナースのためのエンゼルメイク・アカデミア」をスタート。社名は創業者である上野素敬の名前から。代表的な商品として、尊体メイク剤ID、エンゼルケアセット・ベジック、創部安定剤MP-GEL、皮下衰退部修復ゲルSP、尊体用義歯エンゼルデンチャーなどがある。いのちに寄り添うもうひとつの事業として農的暮らしデザイン室を開設。

講座日程

①	東京 5/9 大阪 5/23 11:00~16:30	グループワーク&レッスンⅠ エンゼルケアの手順と技術 大垣麻里 株式会社沙羅 湯灌士	これまで習慣的に行われてきた「詰めもの」などの死後処置は、その後どのような状態にあり、ご家族はどのように受けとめているのでしょうか。ご家族の思いに寄り添うケアの実践のために、退院後の遺体変化やご家族の思いを知り、具体的な医療行為後のケア技術（ルート類抜去部位のケアや滲出液への対応など）を学ぶプログラムです。
②	東京 6/13 大阪 6/27 11:00~16:30	グループワーク&レッスンⅡ エンゼルメイクの手順と技術 大垣麻里 株式会社沙羅 湯灌士	エンゼルメイクの基本から、男性メイク、黄疸メイクなど、メイクのすべてをグループレッスンを通して学んでいただけます。そのほか、創部等へのポイントメイクや綿花を用いて顎を閉じる方法、ヘアスタイリング、ケアに活用できる生体用化粧品の知識など、ほかでは得ることの出来ない、実践者ならではの方法やアイデアが惜しみなく紹介されます。
③	東京 7/11 大阪 7/18 13:30~16:30	特別講座 看取る心 看取る言葉 沼野尚美 ホスピスチャプレン・カウンセラー	ホスピスチャプレン・カウンセラーとして、死を迎える数多くの患者さんやそのご家族の「心のケア」を担当された経験から、さまざまな看取りの場面における「心と言葉」を熱く、やさしく、楽しくお話しただく、あつという間の3時間です。先生の心、言葉、まなざし、佇まい、エネルギーのすべてを感じ、癒され、ケアへの力を養いましょう。
④	東京 8/22 大阪 8/8 13:30~16:30	説明できるエンゼルケア 小林光恵 作家・エンゼルメイク研究会代表	死後の身体変化を踏まえた遺体管理法を取り入れ、保清や身だしなみの整えを基本として、ご家族の意向に寄り添う「エンゼルケア」。寄り添うケアを提供するには、「声かけ」や「説明」が必要です。一方的ではない、コミュニケーション・スキルをともなったケアのあり方を、事例や具体例を掲げながらわかりやすく、やさしくご説明いただけます。
⑤	東京 9/12 大阪 9/26 13:30~16:30	死のかかわりから、何を学ぶか 岩瀬博太郎 千葉大学大学院医学研究院附属 法医学教育研究センター センター長 東京大学大学院医学系研究科法医学教室教授	法医学とは国民の権利維持を目的に作られた「法」が適正に執行されるように、人の死を医学的見地から省察する学問のこと。解剖が目的なのではなく「人のいのちを大切に守る」ためにあるものです。臨床とは異なる立場で“いのちにかかわる医療”の本質を知り、死への援助のあり方のみならず、「医療とはなにか」を考える貴重なプログラムです。
⑥	東京 10/10 大阪 10/24 11:00~16:30	グループワークと講義 エンゼルケア哲学！ エンゼルケアの歴史と遺族の視点から探る意義 上野宗則 「エンゼルメイク・アカデミア」主宰	「エンゼルケアとは、人間の死に立ち会うとき、なにができるかを都度考えること」。遺族を経験し、少なからず死に向き合ってきた者の目線で、死後ケアの変遷と日本人の死生観を交えながら、「医療が死にかかわる意味」をちょっと哲学的にお話しします。グループワークでは、参加者相互が抱えているケアへの疑問や課題を明らかにしていきます。
⑦	東京 11/14 大阪 11/21 11:00~16:30	ランチとカフェをともに “スローデス・カフェ”でつながろう エンゼルケアへの小さなエール 死に立ち会うとき、できること 上野宗則 「エンゼルメイク・アカデミア」主宰	人間の死に立ち会う経験は、医療者であるみなさんにどのような意味をもたらすのでしょうか。半年に渡る学びの旅にもう一度向き合って、死へのかかわりだけではなく、日々のケア業務に変化と確信をつくり出す、1dayセミナーです。ざっくばらんに死について語り合うWS「スローデス・カフェ」、そして、「死に立ち会うときできること」をテーマに、ささやかなエールの言葉を贈ります。ランチとケーキをともにしながら、参加者同志でふれあう、よい締めくりにしましょう。